

資産としての仏壇

村上紀夫

Buddhist Altars as Assets

MURAKAMI Norio

はじめに

- ① 仏壇の普及
 - ② 仏壇を買う・売る
 - ③ 仏壇を差し押さえる・担保にする
- おわりに

【論文要旨】

仏壇に関する研究は、その起源に主たる関心が向けられてきた。一方で、仏壇が売買される〈価値〉を持った商品という側面への関心は希薄だった。そこで、本稿では仏壇の普及と流通について、文献史料によって〈商品〉〈資産〉としての側面に注目して整理した。一七世紀に仏壇が普及すると、後には仏壇が中古品としても流通するようになり、一九世紀にはその資産性から借銀にあたっての抵当とされたり、資金調達時の担保となっていた。仏壇は信仰に由来するものであるが故に、経済的な側面に

いて意識されることは少なかったが、以上の諸事実から、①仏壇が下取り、転売、質流などによって、当初の所有者の手を離れて移動すること、②中古仏壇の市場が形成されていたこと、③大きな仏壇を持っていることは換金可能な担保物件を保持しているという信用につながっていたことを指摘した。

【キーワード】 仏壇、中古市場、資産